

平成24年第3回定例会 文教常任委員会

平成24年10月11日

亀井委員

横浜港南方面多部制定時制高校について、何点か伺います。

多部制定時制高校として、既に神奈川県立相模向陽館高校がありますが、新校との相違について伺います。

高校教育企画課長

新校として計画しております多部制定時制高校は、午前部、午後部として、昼間に学べる定時制という仕組みであり、相模向陽館高校と同じでございます。新校の教育内容やその展開方法などにつきましては、それぞれの学校が、特色を持ったものとして推進していくものと考えております。

亀井委員

教育内容とは離れるのですが、相模向陽館高校は、午後の空いた時間などを使い、アルバイトをしている生徒が多いのでしょうか。

高校教育企画課長

相模向陽館高校に通っている生徒のアルバイトの状況といった具体的な調査は行っていませんが、中学校時代に不登校の経験があるとか、あるいは中学校では学習に意欲的に取り組むことができなかつたといった生徒が多いといった状況でございます。そのため、ライフスキルといった社会人になるための教育を中心に展開しております。

そういった点から、アルバイトをしているとか、時間を有効に活用できているといった生徒が多いという状況ではないと考えております。当然、午前部、午後部それぞれ4時間ごとに学習が展開できるということで、その空いた時間をアルバイトなど有効に活用している生徒もいると捉えております。

亀井委員

なぜ、この質問をしたかという、新校のキャリア教育プランを見ると、1年次から2年次、3年次にかけて、社会に出ていこうというプランであると読み取れますので、それによりアルバイトする生徒が増え、社会との接点を多く持った生徒が増えてくると思ったからなのです。

このキャリア教育プランで学び、アルバイトやボランティアなどの校外活動が多くなることが想定されるため、生徒にとってキャリア教育は大切であると考えているのですが、キャリア教育の中にあるシチズンシップ教育について、新校ではどのような取組をしていくのでしょうか。

高校教育企画課長

シチズンシップ教育は、平成23年度から、全ての県立高校で、キャリア教育の一環として推進しております。新校におきましても、キャリア教育プランの中に詳細なシチズンシップ教育の内容を落とし込んでまいります。その中で、

自信を持って社会で生きていくために、どのような内容を展開したらいいのか検討し、新校のキャリア教育プログラムが出来上がっていきます。

現在、示しておりますキャリア教育プランでも、例えば、朝のホームルームの後に行う活動で、時事問題を扱うこととしております。その中で、消費者に関すること、政治に関すること、司法に関することなどをテーマとして取り上げることも考えられます。また、体験学習や講演会の中でも、シチズンシップ教育に関する内容を展開することもできます。

このように、キャリア教育プランでは、年次ごとに目標を立て、その目標に対して達成できるようなシチズンシップ教育の内容を取り込んでいくものと考えております。

亀井委員

新校の生徒に限ったことではないのですが、シチズンシップ教育の政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育とある中で、プライオリティーを付けるべきだと考えるのですが、所見をお伺いします。

高校教育企画課長

シチズンシップ教育の狙いにつきましては、様々な体験活動を通じて実社会で生きる知恵と経験を獲得するというところでございます。また、育成していくべき力、態度というのは、責任ある社会的な行動、地域社会への積極的な参加、さらには、社会や経済の仕組みについての理解、それを基にした社会的課題の解決に主体的に取り組む意欲だと思っております。

本県では4本の柱で、学校の状況、生徒の興味、関心、生徒に理解させるべきと考える内容といった点から、各学校が、学校における計画的な教育実践に当たり、1年次、2年次、3年次、定時制高校においては4年次という年次を見通し、4本柱をいつ、どのように重点化していくのかも含めて計画しております。そのため、県として優先順位は示しておりません。

亀井委員

日本の社会保障、年金、医療は複雑であり、年金は特に複雑であることから、こういったことにプライオリティーを置いた方がいいと思うのです。新校はどういった生徒が入学してくるのか、どういった成長をするのか、それに合わせた教育をお願いしたいと思います。

話は変わるのですが、旧県立港南台高校の跡地は、現在、県立横浜立野高校が使用しているのですが、この学校の向かいに、重度心身障害者施設ができると聞いているのですが、御存知でしょうか。

高校教育企画課長

横浜市に、そのような計画があると伺っております。

亀井委員

当初、重度心身障害者施設ができることに反対する住民の方が多かったのですが、横浜立野高校の施設を利用し、住民との協議会を開催した結果、態度が軟化し、ソフトランディングできそうになっていると聞いております。

横浜立野高校では、新校の開校後も、地域住民の方々を巻き込んだ教育向上のシステムをつくっていくべきだと考えるのですが、所見をお伺いします。

高校教育企画課長

新校は、設置計画で示しておりますように、二つのコンセプトを掲げております。一つは、社会自立に向けた学びの充実、もう一つは、学校と地域との連携でございます。

学校と地域の連携を考えたときに、地域の方々に様々な御協力を頂きながら、地域の人材を活用させていただく、あるいは、体験活動の場を提供していただくといった取組があると考えております。また、一方では、地域の方々のために、体育施設を開放していく、学校内の施設を活用して生涯学習に役立てていただくといったことも必要であると考えております。

これまでとは異なりまして、地域の方々と一緒になって取組を進めていきたいと考えておりまして、新校設置計画では、地域との協働を支える組織づくりを行ってまいりたいと考えております。具体的には、地域を活用した体験活動の在り方や、学習活動における地域の方々の指導をどのように受ければいいのか、また、学校施設を活用した地域活動はどうあるべきか、地域人材、教職員、保護者などが一体となって公開の講座を設定することができないのかといったことを検討するために、地域の諸団体、スポーツ団体、商店街、区の係の方などの行政、こういった方々に入っていただき、学校を支援し、地域との協働により、新たな学びをつくるための組織づくりを行いたいと考えております。

この地域は自然があり、地域活動が盛んですので、それらを取り込んでいけるような方策を一緒に考えていきたいと考えております。

亀井委員

シチズンシップ教育の中で、入学後、すぐに必要なのは、消費者教育だと思います。その際、社会保険労務士や税理士などの専門家を学校に呼ぶ場合も、地域の方、地域と密接に関わっている方に来ていただきたいと思います。

また、向かいの重度心身障害者施設ができることもありますので、教育の中で福祉的な教育を取り入れるべきであると思うのですが、いかがでしょうか。

高校教育企画課長

新校の教育課程では、一つは、基本的なところからしっかりと学んでいただくという、ステップアップによる学びを考えております。もう一つは、社会とのつながり、人とのつながりを意識した学びを提供していきたいと考えております。

科目の設定に当たりましては、地域の自然や人との関わりを体験できるよう、地域と社会問題や地域の自然に親しむことができる科目を置きます。また、一

方で、自己と他者とのつながりを意識することや、他者への思いやりの心を育むため、福祉や子供の発達に目を向ける必要があると考えております。

具体的な例としましては、普通科の学校ではあるのですが、社会福祉基礎、子どもの発達と保育、児童文学研究といった科目を設定し、重度心身障害者施設とも連携しながら、具体的な体験活動を取り入れ、福祉について意識を持てるような教育活動を展開してまいりたいと考えております。

亀井委員

重度心身障害者施設に行くと、生徒の勉強になる環境もありますので、連携していただきたいと思います。

それをお願いしまして、私の質問を終わります。